

札幌市スポーツ推進計画における成果指標の状況

1 スポーツ実施率（週に1日以上運動やスポーツを行う成人の割合）

<現状>【図表1】

- ・目標値を65%に定めているが未達成
- ・平成26年度から減少傾向であったが**平成29年度に56.4%**に上昇（全国平均51.5%）
- ・平成29年度に上昇した主な要因は、質問を国の聞き方に合わせて修正し、身近な健康づくりの運動が実施率に反映されたため。

<分析>

①年代別のスポーツ実施率【図表2】

- ・20～40歳代までの実施率が他の年代と比べて低い。
- ・60歳代以上はスポーツ実施率が高く、目標値（65%）に近い。

②種目別スポーツ実施率【図表3】

- ・「ウォーキング・散歩」といった軽い運動や、「体操（エアロビクス、ラジオ体操を含む）」、「サイクリング」などの一人でも気軽にできる種目が多い。

③男女別スポーツ実施率【図表4】

- ・男女差は小さい（H29において、男性：57.8（全国53.0）、女性：56.3（全国49.9））。

④スポーツ実施の阻害要因（平成29年度市民意識調査）

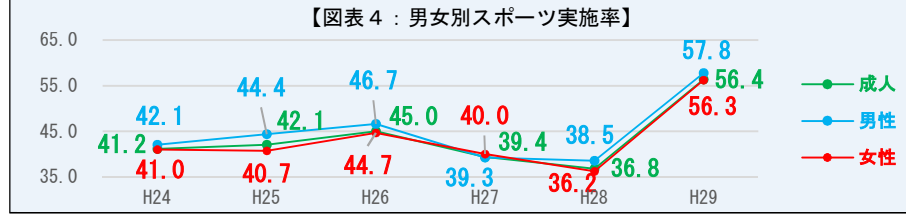
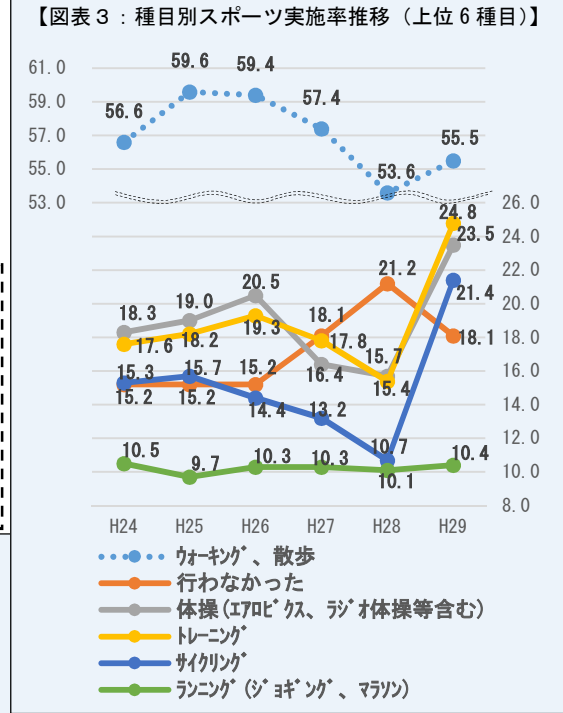
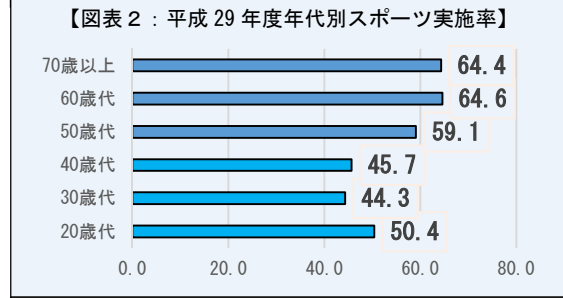
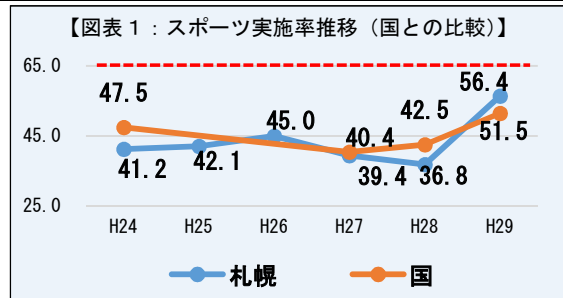
- ・30～40歳代の50%以上が「仕事や家事が忙しい」と回答

⑤今後行いたいスポーツ（平成29年度市民意識調査）

- ・全年代で「ウォーキング・散歩」が最も高い（49.7%）。
- ・「ウォーキング・散歩」は男性よりも女性に人気が高い（女性：51.2%）。

<課題>

- 「ウォーキング・散歩」が最も行われている一方で、**積雪期間においては、このような屋外で行う軽い運動の機会が制限される。**
- 20歳～40歳代に代表される**ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ実施率を向上させる取組みが必要**
- 全ての年代においてニーズがある「ウォーキング・散歩」に代表される**気軽に出来るスポーツに親しめるような環境整備が必要**



2 ウィンタースポーツ実施率（年に1回以上ウィンタースポーツを行う成人の割合）

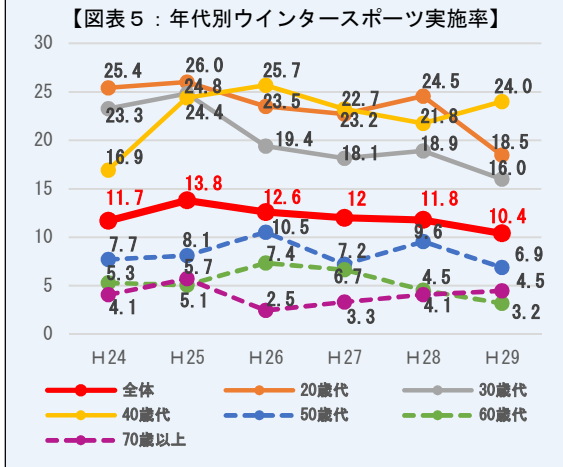
<現状>【図表5】

- ・目標値を25%に定めているが未達成
- ・平成25年度に一時的に上昇し、**平成26年度からは徐々に減少。全般としては横ばい**

<分析>

①年代別のウィンタースポーツ実施率【図表5】

- ・20～40歳代までの実施率が高く、**40代が最も高い**（24%）。
- ・**50歳以上になると実施率は低くなる傾向**
- ・60歳代、70歳代が牽引するスポーツ実施率とは異なる状況



②種目別ウィンタースポーツ実施率【図表6】

- ・スキーが7.3%と最も高く、次いでスノーボード2.3%、スケート1.5%の順になっている。

③男女別ウィンタースポーツ実施率【図表7】

- ・男性に比べて女性の実施率が低い（H29～男性：13.9、女性：8.4）

④ウィンタースポーツ実施の阻害要因（平成29年度市民意識調査）

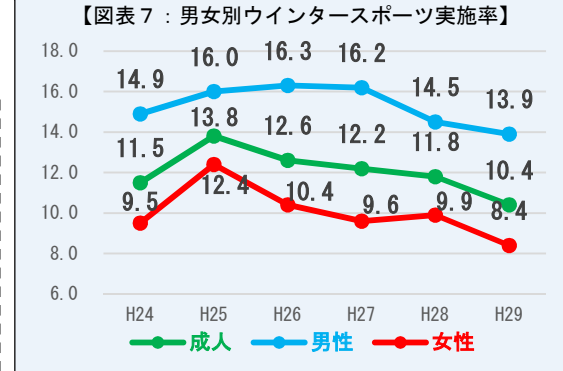
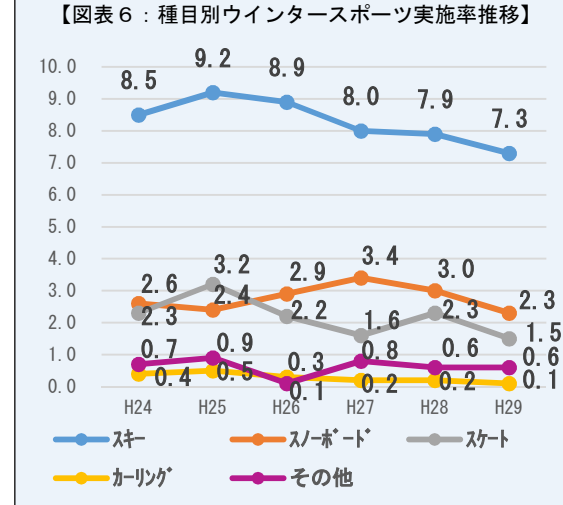
- ・各年代で、「用具購入にお金がかかる」、「施設利用料が高い」などの**経済的な理由**を回答している人が多い。
- ・**60歳代、70歳代は「病気・体力・年齢」が最も多い。**

⑤今後行いたいウィンタースポーツ（平成29年度市民意識調査）

- ・20～30歳代は「スノーボード」が最も多い。
- ・40歳代以上においては「スキー」が最も多い。
- ・**各年代において、「カーリング」は満遍なく回答がある。**

<課題>

- 60歳以上は「病気・体力・年齢」を阻害要因に挙げている人が多く、**ウィンタースポーツの競技性から、高齢者に対しウィンタースポーツの実施を推奨することは、健康づくりに直結するものではない可能性がある。**
- ウィンタースポーツ特有の阻害要因として**経済的要因がある。**
- 今後の高齢化の進行を考えると、**ウィンタースポーツ実施率の低い高齢者の割合が増加し全体の実施率が低下する可能性がある。**



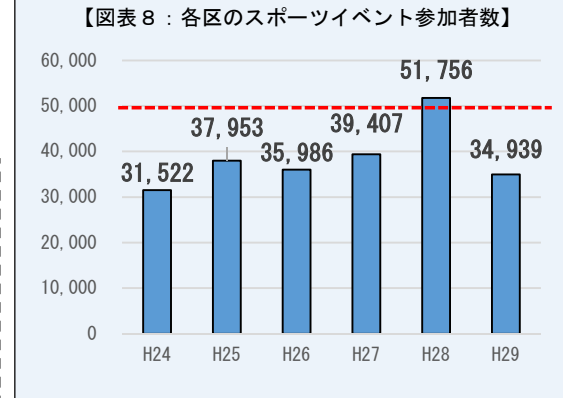
3 各区で実施するスポーツイベント参加者数

<現状>【図表8】

- ・目標値を年間50,000人に定めており平成28年度に達成
- ・平成28年度は、**冬季アジア札幌大会の開催に伴う区民応援ツアーやおもてなし事業の参加者を人数に含めたため目標値を達成**

<課題>

- 各区が主催、共催するもののみ集計しているが、地域におけるスポーツ活動の活性化を考えると、**地域単位の自主的なイベントも含める必要がある（把握が困難）。**
- 平成29年度においては、大規模大会の開催がないため、平成27年度以前の数値に減少。**傾向としてはほぼ横ばいの状況。**



4 新たに開催する大規模スポーツ大会（選手、役員、観客合わせて数千人規模の大会）開催数

<現状>【図表9】

- ・平成34年度までに10大会の開催を目標にしており、**平成29年度時点で8大会を開催**
- ・平成30年度に札幌で開催される、日本スポーツマスターズ2018札幌大会、第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会を踏まえると、**目標値を達成する見込み**

<課題>

- 今後は**イベント開催だけでなく、観光振興、交流人口拡大等の経済・地域の活性化が重要**

